

訃報

二月十三日〜十四日のSANCSの一泊合宿を終えた翌日のことです。飯田さんのお父上が八十九歳で急逝されました。十四日に私が東京へ帰ってから飯田さんにお電話をした時は、お父上が出られ、いつもであれば名も聞かずに「若い者はいないよ」と言われて受話器を置かれてしまうところでしたが、その日は「ああ、川村さん。若い者はいるはずだが」と言って母屋に行く気配です。私は「分かりました」と言って、飯田さんの携帯にかけなおしました。それがお父上との最後の会話となりました。

飯田さんからは、お父上はかなり頑固だとお聞きしていましたが、私達にはいつもお会いすると笑顔で迎えて下さいました。飯田家を通過して合宿所に向かう車内で“もう一度会ってきたい”という思いが何故かいつも最近は特別にありました。ご冥福をお祈りいたします。

川村正道

SANCS一同



カジカガエル かれこれ十年程になりますが、秋田からカジカ蛙を持ってきて飼育し、その鳴き声を楽しんでいます。当初、四匹いたものが脱走されたりして二匹になってしまいました。私の姉の岡庭登志子が、東京に出て来ると観察ケースを洗ってきれいにしてくれまます。その度に姉は蛙たちに話しかけながら面倒を見ています。その内の一匹の蛙は、姉が手で触れても逃げなくなりました。そうなる人の心理で、「この蛙は頭が良い」となるものですから、蛙に認識された人間としてますます話しかける内容も、接し方も丁寧に

なります。姉が鎌倉から出てきて我が家の居間で、私達と会話をすると、その声を聞きつけて、蛙が「ケーケーケー」とまた鳴いて歓迎してくれます。昔から「一寸の虫にも五分の魂」と言いますが、蛙にこのような能力がある事を私は初めて知り、生物を扱う者として少々恥ずかしくなりました。そんなある時、姉がいつも通り観察ケースを洗った際にちよっとしたすき間ができ、夜中に蛙が脱走してしまいました。カジカ蛙は、ほんの二mm程のすき間を見逃す事なく、よく脱走されてしまいます。翌朝になり、あちらこちら探しても見当たらず、きつと家具の裏に入ってしまったのかとあきらめかけた時、窓のサッシの隙間に一匹が干からびて亡くなっていました。さてもう一匹も残念な事と思っていると、翌朝、何と台所の入口に置いてある、犬達の飲水の器の中にもぐっているのを発見！これがまた姉のお気に入りの、馴れている方の蛙だったので、姉はますます

蛙がいとおしくなっていて話しかけているというわけです。カジカ蛙の寿命が何年位なのか、知っている人がいたら教えて下さい。今回は『小さな蛙にも人を認識する能力がある』という、大変に勉強させられたお話です。

カジカ蛙：アオガエル科のカエル
 渓流などに棲んでいる。
 風流のある美しい鳴き声で、
 雄が求愛の時に鳴く。
 繁殖期は5月〜7月

